

熊本県立岱志高等学校定時制 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標	
生徒・保護者・教職員・地域が「岱志に来てよかった、岱志にやってよかった、岱志に勤めてよかった、そして岱志がここにあったよかった。」と思える学校を目指す。 ～総合的人間力の育成～	
1 夢(志)を描き、夢の実現への挑戦	…… 志を育み、励まし、鍛え、伸ばす
2 心の教育の充実	…… 自己肯定の心と命を大切に作る心、郷土を愛する心の育成
3 生徒指導の充実	…… 基本的生活習慣の確立及び自律心の育成
4 確かな学力の育成	…… 基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実

2 本年度の重点目標	
本年度のスローガン「共に学び 共につくる 新たなカタチ」	
(1) 特色ある学校づくりを推進する。	
(2) 学力の向上と進路保障の取組を強化する。	
(3) 健全な心身を育成する。	
(4) 安心・安全な学校を維持する。	
(5) 地域社会の期待に応え、活力ある学校づくりを行う。	
(6) 定時制の特色化を推進する。	

3 自己評価総括表		※「成果と課題」の部分は、○：成果 △：課題・改善・継続等				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	○学校教育目標の具現化	○教育の重点目標達成に向けた実践	○業績評価において全職員が掲げた取組目標の達成 ○生徒にとって安心・安全な環境づくり	○「生徒を第一」に考えた各自の目標達成に向け、日々の教育活動実践 ○全職員が情報を共有しチームとして対応できる職員集団の形成	B	○職員自らがそれぞれの業務を意識して実践できた。 △今年度は、職員不在のため自習で対応しなければならない期間があった。職員が少人数であり、多くの業務を兼務しているなかで、チームとしてカバーしあえる集団形成が課題である。
		○定時制教育の充実	○定時制生徒会スローガン「共に学び 共につくる 新たなカタチ」の実践	○生徒と教職員が本校定時制の一員としての誇りを持ち信頼関係の確立 ○学習・生活・進路等への的確な指導・支援の実践	B	○生徒の実態に合わせた学習や生活・就労の指導や支援ができた。 ○生徒会を中心に生徒たちが主体性を持って学校行事を実施できた。 △生徒会の生徒だけでなく全ての生徒の意欲高揚、生徒・職員間の信頼関係づくりを今後も深めていく。
		○外部への本校定時制に関する効果的な情報発信	○ホームページや定時制だより等を活用した広報活動の充実	○HP記事を行事1週間以内に更新 ○定時制だよりを年5回発行	A	○HPを学校行事終了後できるだけ早い時期に更新できた。 ○広報誌「夕風」を予定通り発行することができた。 △定時制の学校行事を報道機関に取材依頼したが、取材はあった。新聞掲載は2回のみであった。

○教育のUD化	○生徒個々への的確な対応及び指導	○職員・生徒のコミュニケーションスキルの向上 ○支援を要する生徒等への適切な対応	○日頃から生徒との会話を重視した言語環境を实践 ○生徒の課題は毎日の連絡会時に共通理解し、組織で対応	A	○昼・夜2回の連絡会のなかで生徒情報を全職員で共有し、生徒指導に活かした。 ○多様な家庭環境・特性を持った生徒に対して、全職員で知恵を出しながら効率の上がる指導をするよう実践した。
	○新学習指導要領に沿った定時制課程教育の充実	○新教育課程と本校定時制での学習指導並びに観点別評価の運用	○新学習指導計画並びに観点別評価基準の実施と改善	B	○1・2年生が新教育課程となり、改善を重ねながら観点別評価を導入している。 △今後も教務部を中心に本校定時制の特色を出した教育課程の編成と評価に取り組む予定である。
○業務改革	○能動的な業務姿勢	○職員自らが気づき変わり、主体的に考えた業務の実行と改善	○前例踏襲ありきではなく、改善する意識を持った主体的な業務遂行	C	△一部ではあるが、物事を自ら考えず、常に指示待ちの姿勢が見られる状況があった。 △様々な課題に直面した際、自ら視点を変える柔軟さを持てるようにすることが今後の課題である。
	○会議・研修等の効率化	○時間を有効に活用した会議・研修等の実施	○会議等の時間短縮 ○昼の連絡会の有効的な活用	B	○会議では、資料を事前に配付し、会議時間の短縮を行った。また昼の連絡会を有効に活用し、研修を実施している。
○働き方改革	○風通しの良い職場環境	○職員全体で課題に向かう集団形成	○職員が課題を抱え込まず意見や相談などを伝えやすい職場づくり	B	△「報告・連絡・相談」機能しない場面があった。 △職員間での適度な距離感とコミュニケーション能力の向上が課題である。
	○職員の健康・安全の保持	○職員が健康でやりがいを持って業務にあたる環境づくり	○職員が互いに変化等に気づきサポートし合えるような職場環境づくり	B	△職員数が少人数である定時制では一人でも欠けると業務に支障が出る。今後は職員が一枚岩になってお互いをサポートしあえる職場環境作りが目標である。

学力向上	○基礎・基本の確実な理解と定着	○全職員による個々の生徒の学力把握と分析の共有	○基礎学力診断テスト「BIG GATE」等による学力分析の全職員での共有と情報交換	○分析結果をふまえた学習課題の設定と授業計画の改善、考査の作成	A	○学力分析会や生徒理解研修をもとに全職員で生徒の学力や特性の把握に努め、学習内容や考査作成、成績の算出等に活かした。
		○出席率の向上と授業時間の厳守	○出席率87%以上 (R4年度出席率86.24%) ○安易な授業遅刻・早退・欠課の減少	○欠課時数・欠席理由の把握と共有 ○遅刻・欠席等が多い生徒との面談充実 ○保護者・家庭との連携の維持	A	○放課後の連絡会や空き時間等で生徒の状況や欠席の理由などを共有し、欠席が多い生徒については担任や教科担当者で連携して対応した。出席率は87.75%だったが、安定して出席する生徒と欠席が多くなる生徒が二極化している。 ○欠点保持、出席時数不足生徒対象の保護者会を実施した。改善がみられない生徒もいたが、一定の成果はあった。今後も家庭との協力体制構築に努める。
	○個に応じた指導・支援の充実	○個々の生徒における学習上の課題の把握や支援	○生徒の課題を全職員で情報共有するとともに、協力しながら学習面等あらゆる面での課題の解決	○生徒の情報共有、職員の相談やアドバイス等が気兼ねなくできる職員間のサポート体制づくり ○生徒への適切な声かけ並びに信頼関係の構築	B	○担任、教科担当者、養護教諭等で情報を共有し、多角的な視点で生徒の指導、サポートにあたった。 △考査前学習会を企画し、生徒の課題に対する指導を行ってきたが指導の必要な生徒の参加が少ない。生徒への声かけの工夫を考えていく。
		○授業改善	○UDや特別支援教育の視点に立った「主体的・対話的で深い学び」へと導く授業の実践 ○ICTを活用した教材づくり	○日ごろの授業を常時公開 ○生徒の状況や教授方法等について情報交換 ○ICT機器を活用しわかりやすく、学習意欲が高まる教材の工夫と情報の共有	B	○タブレットや電子黒板等のICT機器が多く活用され、生徒の興味関心を高める授業が行われた。生徒が協働する場面もよく見られ主体性も高められた。 △ICT機器の活用については教科間、個人間で差があり、使い方や教材作成の方法トラブル対応などについて、いかに情報共有を行っていくかが課題である。

キャリア教育(進路指導)	○進路意識の高揚	○就労経験者率の向上	○就労経験者75%以上	○全校集会の活用 ○インターシップの計画・実施・振り返り	B	○進路LHR「岱定らしんばん」を4回実施し進路意識の高揚を図った。就労経験者率は、約8割である。 ○積極的な呼びかけを行い、数名の生徒が地元企業のインターシップに参加することができた。
	○進路保障	○進路目標の達成状況	○進路決定100%	○生徒・保護者の進路希望の把握並びに早期の進路意識の高揚 ○進路情報の提供 ○各生徒の適性に合った進路指導	B	○家庭訪問や面談等で進路希望の把握を行い、就職や進学に向けた進路意識の高揚を図った。 ○LHR等を通じて、進路情報の提供を行った。 ○個別の企業見学や訓練校等の見学を通して、生徒の適性に合った進路指導を行った。
	○ソーシャルスキルの育成	○生徒理解に基づく進路指導の取組	○自己理解・自己肯定感・自己管理能力の育成 ○人間関係・社会形成能力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成	○職場訪問の実施 ○LHRの活用(進路LHR「岱定らしんばん」) ○特別支援教育と連携したLHRの活用	B	○生徒の就労先の企業訪問を各担任等で行い、進路LHR「岱定らしんばん」を実施し生徒理解に基づく進路指導を行った。 ○ソーシャルスキルについて特別支援教育と連携したLHRを実施した。
生徒指導	○生徒理解に重点を置いた生徒指導の充実	○生徒理解研修の充実	○生徒の生育歴や家庭環境、交友関係生活環境等の情報の共有、情報を基にした個別の対応	○連絡会等での生徒情報の共有の実施 ○随時、生徒理解研修を実施 ○登校指導、巡回指導の実施	B	○日に2回生徒情報の共有を行い、生徒理解及び適切な指導につなげることが出来た。 ○定期的に研修を行うことで、生徒理解のブラッシュアップが出来た。 ○生徒の変化を早期に発見、状況の傾聴・把握に努めることが出来た。
	○基本的な生活習慣の確立	○自律心の育成	○校内外のルールの遵守	○巡回指導、個人面談の実施 ○きめ細かな家庭への情報提供及び共有 ○進路部と連携した、卒業後の進路を見据えた指導	B	○適宜巡回と定期的な面談により、落ち着いた学習環境の維持に努めた。 ○生徒の変化を家庭と共有することで指導への理解を得、問題の深刻化を未然に防ぐ一助となった。 △生徒指導部での進路のための指導は実施したが、進路部との連携を生かした取り組みについては不十分であった。

	○生徒会活動の活性化	○健全な心身の育成のための生徒の主體的な学校行事の運営	○生徒会行事への参加率90%以上 ○コミュニケーション能力の育成	○生徒同士で協働できる体制づくり ○生徒の主體的な活動に向けた適切な支援	B	○生徒会行事への参加率は90.1%であり、目標を達成できた。 ○生徒会行事において生徒発案の新しい企画を実施することができた。
人権教育の推進	○人権意識の啓発	○自己と他者の尊重と人権課題への理解	○より良い人間関係の構築 ○差別について正しく学び、差別や偏見を見抜き、差別をなくすための具体的な行動ができる生徒の育成	○人権学習LHRを行い差別について理解し考える場を提供 ○年3回人権だよりを発行 ○自己の内面を見つめ、他者を理解し行動できることを目指した人権教育の実践	B	○本年は障がい者の人権についてメインに取り扱い、様々な生きづらさを感じながら生きる人のことを理解する機会を設けた。その中で自己・他者理解の大切さを学ぶことができた。 △身近にいる人のことだけではなく、社会には具体的にどのような差別が起こっているかをより広く知るための手立てが必要である。
	○「命を大切にする心を育む指導」の充実	○自尊感情と自己肯定感の確立	○自尊感情と自己肯定感の向上 ○学級担任等と連携し、個々の生徒における課題の把握や支援	○生徒の自尊感情・自己肯定感を高める教育指導プログラムの充実 ○生徒の居場所づくりを意識した学級運営 ○外部専門機関との連携	B	○定期的に連絡会等で生徒の状況を報告する機会を設け、生徒が安心して学校生活を送れるように努めた。 △生徒の自己肯定感を高めるための具体的な取組を進めていきたい。
いじめの防止等	○いじめ及び類似事案の根絶	○他者理解及び自尊感情の向上	○いじめ事案ゼロ	○教育活動全般における人権意識の涵養 ○スクールロイヤーを活用したいじめ予防授業等の実施 ○いじめの未然防止指導事案発生時の早期発見・早期対応 生徒・保護者・学校間の情報共有個別事案対応、事後指導に至るまで、責任を持った指導の徹底	B	○日常的な声掛けや集会等、生徒の人権意識が高まるよう努めた。 ○予定通り実施、専門的な知見を得ることで生徒の意識が向上するきっかけとなった。 ○現時点でいじめの発生はない。未然防止及び発生時の指導体制をさらに徹底していきたい。

地域連携(コミュニティ・スクールなど)	○学校運営協議会による地域との連携	○学校運営協議会の機能的な連携協力体制の構築	○学校運営協議会委員の意見等を反映した学校教育活動	○学校運営協議会委員等が本校の教育活動の改善	B	○学校運営協議会では学校に対する多くの意見や学校に対する期待と改善点を知ることができた。
	○荒尾市荒尾地区協議会との連携	○荒尾地区協議会運営委員会への参加	○地域住民へ定時制行事のPR及び理解	○荒尾地区協議会に参加し、地域住民へ定時制の取組等を説明する	B	○荒尾市荒尾地区協議会運営委員会へ毎月1回参加し、地域の方々へ岱志高校の現況を報告した。
	○荒尾市防災対策会議との連携	○校内における防災意識の高揚	○あらゆる災害を想定した防災マニュアルの充実	○荒尾市総合防災訓練への参加	B	○本校は災害時物資拠点に指定されており荒尾市防災安全課の指示のもと、荒尾市職員と本校職員が連携して訓練に参加した。 △今後は地域住民参加型の訓練へと移行する必要がある。
環境教育	○環境美化の充実	○身のまわりの環境整備への意識の高揚	○清掃活動や整理整頓等による環境美化の取り組み	○教室・職員室及び周辺等の環境美化に努め、落ち着きある環境作り	B	○職員主導ではあるが教室などの清掃・整備は毎日なされている。 ○登校指導時間を利用し、職員が校内美化に取り組んでいる。 ○ゴミの分別は習慣化している。 ○教室にペットボトルを放置している生徒がおり、全職員で継続的に指導していきたい。
特別支援教育の充実	○特別支援教育の職員の指導力の向上	○特別支援教育に関する職員の知識の向上および理解の深化	○障害特性や多様性に関する理解の深化と対応の充実 ○特別支援教育に対する学校対応のUD化	○生徒理解研修を定期的実施する ○障害理解、評価、就労支援に関する職員研修を実施する ○特別支援教育に関する生徒・保護者対応マニュアルを作成し、年間対応をスタンダード化する ○保護者へ情報提供を行う	B	○年度当初と11月に2回の生徒理解研修を実施した。 各教科担当者による「気づきシート」を作成し、生徒の状況を把握して、支援に活かした。 ○障害の理解、就労を見据えた「個別の教育支援計画」等の作成に関する職員研修を実施し、支援の方法について理解を深めた。 ○就労支援について、支援機関や巡回相談を活用し、本人と保護者へ情報提供ができた。 △個々の生徒が将来の生活基盤を作れるように、計画的に支援を行うためのマニュアル作成を行う。

		○個に応じた支援の実践	○学校不適応の未然防止および早期対応を意識した支援の実践	○生徒の状況を把握し、情報共有を行う ○要配慮生徒の個別の教育支援計画等を作成する ○SC・SSW・医療機関等と連携して支援を行う ○ケース会議を開催して情報共有と支援の方策を検討し支援を行う	B	○健康相談週間における生徒面談結果もふまえ、第2回生徒理解研修を実施し支援に活かした。 ○特別支援教育委員会を開催し、対象者を検討して、個別の教育支援計画等を作成した。 ○SSW、外部支援機関等とケース会議を実施し、卒業後の進路や支援機関について検討した。 △本人の自己理解を促すために定期的に本人、保護者と面談を実施する。
--	--	-------------	------------------------------	---	---	---

※「成果と課題」の部分は、○：成果 △：課題・改善・継続等

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数でコンパクトな学校という利点を活かして、先生方が生徒一人一人を大切にした教育が行われている。「岱志高校に入学させて良かった」という声も聞いている。 ○進路指導等で個別指導が行き届いている。その点をアピールポイントとして発信してほしい。 <p>(2) 生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在、荒尾市では自転車の盗難が増えている。岱志高校でも自転車の二重ロックに取り組んでほしい。「安心・安全で魅力ある学校づくり」を今後も推進してほしい。 <p>(3) 地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回開催されている荒尾地区協議会運営員会に岱志高校からも出席して頂いている。そのなかで定時制便り「夕凧」が配付されており、各地区の区長も岱志高校定時制の取組を理解している。今後も地域とのつながりを大切にしてほしい。

<p>5 総合評価</p> <p>(1) 本年度の学校教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒・職員ともに本校定時制に愛着を持ち、中学時代に不登校であった生徒も、夕方から授業を受け、学校生活の楽しさを感じ取り、学校を「居場所」と捉え、充実した学校生活を送っている。職員もまた、「生徒を第一」に考えた教育活動を引き続き実践し、生徒に寄り添いながら指導にあたっている。 ○「総合的人間力の育成」については、生徒は仕事(アルバイト)と学業の両立を図りながら生活することで、学校だけでなく社会の力を借りながらコミュニケーション力の育成に繋がっているところである。 <p>(2) 本年度の重点目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒たちは中学時代に不登校を経験するなど様々な課題を抱えながらも、全体的に明るく元気に登校している。特に今年度は、生徒会を中心に生徒たちが主体的に学校行事を運営する様子が見られるなど、成長が感じられた。 ○教職員は多様な価値観を持つ生徒たちそれぞれの距離間を考慮して、寄り添うような指導を心掛け、家庭と連携しながら指導に当たっている。 ○「基礎学力の充実」では生徒の興味・関心を引くように、評価の観点を事前に伝えるなど授業展開の工夫やICT機器の有効的な活用を実践している。 <p>(3) 自己評価総括表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員の業務改革における「能動的な業務姿勢」をC評価とした。 ○職員の「能動的な業務姿勢」は、受け身にならず、職員自らのアイデアで、生徒の成長を促したいとの思いで目標に掲げたが、常に指示待ちで、職員自らが考えて行動しない場面があった。今後は職員が多面的な視点を持ち、資質向上できるような研修を実施していきたい。 ○その他、4項目がA評価、23項目がB評価ということで、全般的には年度始めに設定した目標は概ね達成した。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 生徒・保護者が安心・安全な学校生活を送れる「荒定家族(あらていファミリー)」の継続
生徒一人一人が安心して学校生活を送れるように、教職員が生徒に寄り添い、個に応じた指導を行い、生徒・保護者・職員と一緒に本校定時制を活気づけられるような関係づくり雰囲気づくりを実践し、前身校からの生徒会スローガンで脈々と継承されている「荒定家族」を継続する。
- (2) 生徒・保護者・教職員が「岱志高校定時制でよかった」と思える学校づくりの継続
今年度の生徒・保護者へのアンケートの記述項目で「先生方の優しさ、温かさがあって、学校に通えています。そのように接し、関わってくださることにとっても感謝しています。ありがとうございます。(2年生保護者)」という意見を頂いた。今後も生徒・保護者から信頼を得られるように、生徒・保護者・職員が「岱志高校定時制に来てよかった」と思える学校づくりを継続する。
- (3) ICTを活用した基礎学力の充実
基礎学力の向上と学習内容の定着がまだ不十分だと感じられる。不登校等で中学生までに身につけるべき基礎学力が不足している。その不足分はタブレット端末等を活用しながら補い、学習内容を定着させている。そのうえで自ら学びに向かう態度をいかに育成するかが課題である。学びで得られる充実感、達成感が感じられるような授業を、生徒の実態に即しながら職員で実践していきたい。具体的には公開授業期間等を活用し、授業の感想や気づきなどを職員で共有していく。
- (4) 進路指導の充実
今年度、正社員として就職した生徒は3名である。正社員雇用に向けて、今後も進路学習「岱定らしんばん」等を充実させながら、生徒が主体的に進路意識を高める取組を実践していく。
- (5) 生徒指導関係
本年度も問題行動やいじめ事案はゼロであった。今後も問題行動の発生抑止と問題が起こった場合の早期解決のための体制構築をさらに充実していく。
また、生徒会関係では学校行事に対する生徒たちの主体性は年々向上している。生徒会を中心に全生徒を主役にする取組の表れである。しかし、少数ではあるが数名の生徒が、生徒会行事の度に欠席している。全校生徒が楽しく活動できる企画内容を今後も検討していく。
- (6) 人権教育について
人権LHR等を実施し、生徒たちに人権意識の高揚を図った。但し、職員の校外での研修機会が少なく、今後は増やしていくことが課題である。
- (7) 環境教育について
○エコキャップ運動について
回収されたキャップがワクチンの接種の資金として利用されることについて周知した。また、学期ごとに回収したキャップの重量を量り記録し、集会で報告した。しかし、重量を量り、記録することについては、今年度から始めたばかりであるため経年の比較ができていない。今後は、毎年記録し、生徒が分別に積極的に取り組むための意識付けにしたい。
- (8) 特別支援教育と個に応じた生徒への対応の充実
○特別支援教育について
療育手帳を取得している生徒を中心に、将来の就労に向けて、本人の自己理解を促すことが課題である。次年度は自己理解を促すアプローチに関する職員研修を実施できるようにする。
○個に応じた生徒対応について
個々の状況に応じた支援を受け、将来、就労につながるように基本的な生活習慣を確立し、健康を維持できるよう生活の基盤作りをしていくことが課題である。